

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学 I	3	1年1類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	新編 数学 I (数研出版)	Study-Up ノート数学 I+A (数研出版) 数学 I・A 一問一答 (東進ブックス)	

科目の到達目標
方程式と不等式、2次関数および図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点に基づいて、定期考査、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、ノート点検、小テストによって総合的に行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント	
一学期	4	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ	2次関数の値の変化を考察することを通して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	2次関数のグラフ	平方完成ができる。 平行移動と2次関数のグラフの関係を理解している。	
	5	第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 (中間考査)		2次関数の最大・最小 最大・最小の応用		
	6	第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係		2次関数のグラフとx軸との交点		方程式の解とグラフの関係を理解している。
	7	7. 2次不等式 (期末考査)		2次不等式の解を求めることができるようにする。 2次関数のグラフと2次不等式		グラフを用いて、2次不等式を解くことができる。
二学期	9	第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理	三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。	鋭角の三角比 180° - θの三角比 三角比の相互関係	三角比の定義、基本公式を理解している。  図形に応用できる。	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	10	(中間考査) 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。	直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用	正弦定理，余弦定理を正確に使用できる。
	11	第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏 4. 命題と証明 (期末考査)	集合についての基本的な事項を理解し，統合的に見ることの有用性を認識する。	集合の表し方，集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶 背理法を用いた証明	集合の要素の個数を求めることができる。  背理法を理解している。
	12		論理的な思考力を伸ばし，集合を命題の考察に生かす。		
二 学 期	1	第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間関係 6. 仮説検定の考え方	統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	度数分布表，ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数 分散・標準偏差	
	2	数学Ⅱ 式と証明 ・整式の除法と分数式 整式の除法の計算 分数式の計算 恒等式 等式の証明 不等式の証明	数学的な考え方や論理的思考力を養い、式と証明についての理解を深める。		多項式の割算の方法を理解している。
	3	相加平均・相乗平均 (学年末考査)	数の範囲を複素数まで拡張して高次方程式を解くことができる。		等式・不等式の証明を通して、数学の論証に興味関心をもつ。
<p>その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )</p> <p>習熟度別にクラスを解体して授業を進めます。数Ⅰの授業では、2次関数から学習し、3学期には数Ⅱの「式と証明」の内容に入ります。学力の定着を図るために、教科書の復習や参考書で毎日、家庭学習をすることを求めます。また、授業の進度に合わせて課題を出します。自分でまる付けをして、提出してください。また、毎週木曜と金曜の7限に行われる講習も活用し、日々の疑問を明日に残すことのないようにしてください。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学 I	4	1年・2類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	高等学校 数学 I (数研出版)		NEW ACTION LEGEND 数学 I・A(東京書籍)

科目の到達目標

数と式、2次関数、図形と計量、三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

評価の観点と方法について

評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重視して、小テスト・課題・課題テスト・定期考査等で確認していく。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数	数を実数まで拡張できる意義を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式の計算 整式の加法と減法 整式の乗法 因数分解</li> <li>・実数 実数 根号を含む式の計算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数法則を理解し、整式の四則演算ができるか。</li> <li>・いろいろな式の因数分解ができるか。</li> <li>・絶対値記号や不等式の解の意味を理解し、方程式・不等式を解くことができるか。</li> </ul>
	5	第3節 1次不等式  (中間考査)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次不等式 不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式</li> </ul>	
	6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数とグラフ 関数とグラフ 2次関数のグラフ 研究 グラフの平行移動 研究 グラフの対称移動</li> <li>・2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小 2次関数の決定</li> <li>・2次方程式と2次不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 発展 放物線と直線の共有点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平方完成ができるか。</li> <li>・頂点・軸について理解し、2次関数のグラフがかけられるか。</li> <li>・定義域を考え、最大値・最小値を求めることができるか。</li> <li>・2次関数のグラフと、2次方程式・2次不等式の解の相互の関係を理解しているか。</li> </ul>
7	(期末考査) 夏期講習		<ul style="list-style-type: none"> <li>2次不等式 研究 絶対値を含む関数のグラフ</li> </ul>		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント		
二 学 期	9	第4章 図形と計量 第1節 三角比	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角比</li> <li>三角比</li> <li>三角比の相互関係</li> <li>三角比の拡張</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できるか。</li> <li>正弦定理・余弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができるか。</li> <li>三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めることができるか。</li> </ul>		
	10	第2節 三角形への応用  (中間考査) 数学Ⅰ終了 数学Ⅱ				<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形への応用</li> <li>正弦定理</li> <li>余弦定理</li> <li>正弦定理と余弦定理の応用</li> <li>三角形の面積</li> <li>空間図形への応用</li> <li>研究 四面体の体積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な式変形をして、三角方程式・不等式を解くことができるか。</li> </ul>
	11	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角関数</li> <li>角の拡張</li> <li>三角関数</li> <li>三角関数のグラフ</li> <li>三角関数の性質</li> <li>三角関数の応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角関数を含む関数の最大・最小を考察することができるか。</li> </ul>		
	12	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数  (期末考査) 冬期講習 第5章第2節 対数関数	指数と対数の関係、指数と対数を含む計算方法を学び、桁数などの事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法定理</li> <li>三角関数の加法定理</li> <li>加法定理の応用</li> <li>指数関数</li> <li>指数の拡張 指数関数</li> <li>対数関数</li> <li>対数とその性質 対数関数 常用対数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指数を有理数へ拡張する意義を理解している。指数関数とそのグラフの特徴について理解している。</li> <li>対数の意味とその性質について理解し、対数の計算ができる。対数関数とそのグラフの特徴について理解している。</li> </ul>		
三 学 期	1	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>点と直線</li> <li>直線上の点 平面上の点</li> <li>直線の方程式 2直線の関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内分・外分する点の位置や2点間の距離を表せる。また、直線を方程式で表し、それを2直線の位置関係などの考察に活用できる。</li> </ul>		
	2	第2節 円 第3節 軌跡と領域				<ul style="list-style-type: none"> <li>円</li> <li>円の方程式 円と直線 2つの円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用できる。</li> </ul>
	3	(期末考査)				<ul style="list-style-type: none"> <li>軌跡と方程式 不等式の表す領域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軌跡について理解している。また、不等式の表す領域を求め、領域を不等式で表せる。</li> </ul>
<p>その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )</p> <p>教科書による学習の後、参考書を見ながら問題集を解き進めることにより力を養ってほしい。毎週小テストを行い、基本問題の定着を図る。また20名以下の少人数による解体講座を開講し、きめ細やかな指導を図る。それぞれの講座で各自の数学力を最大限伸ばしてほしい。</p>							

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学 I	3	1年3類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		新高校の数学 I (数研出版)	ポイントノート (数研出版)

<p>科目の到達目標</p> <p>中学までの計算の基本を再確認し、方程式と不等式、2次関数および図形と計量について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>評価は「知識、技能」「思考、判断、表現」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点に基づいて定期考査、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、小テスト等によって行なう。</p>
---

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第1章 数と式 数と式の計算	多項式の意味を理解し計算規則を習得する 因数分解の基礎知識を習得する	式の展開 共通因数 2次式の因数分解 3次式の因数分解 因数分解応用 副教材演習	基本的な因数分解ができる
	5	中間考査  根号を含む計算 実数	数の体系を理解し根号を含む計算を習得する	有理数 無理数 実数 絶対値 根号を含む式の計算	絶対値、根号を含む式の計算ができる
	6	1次不等式	1次不等式の解法を習得する	不等式の基本性質 1次不等式の解法 1次不等式の応用 副教材演習	1次不等式を解くことができる
	7	第4章 集合と命題  期末考査	集合 命題 命題の証明	集合を用いた真偽 偽のとき反例を示すこと 必要条件・十分条件 命題の逆と対偶、背理法の証明	集合を用いて証明をすることができる。 逆と対偶が理解できる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第2章 2次関数 2次関数のグラフ	2次関数とグラフ の関係を理解しグ ラフを描ける	関数の意味 2次関数グラフを描くための式変形 グラフの平行移動 グラフ描画	グラフを描くため の式変形ができる グラフを描ける
		2次関数の値の変化		2次関数の最大最小 条件を満たす2次関数を決定する	最大最小問題を解 ける
	10	<b>中間考査</b>  グラフと2次方程式	2次方程式の解法 を習得する	因数分解による解法 解の公式 2次方程式解の分類 2次方程式の応用	2次方程式を解くこ とができる 解の分類ができる
	11	第5章 データの分析  <b>期末考査</b>	度数分布表 代表値、箱ひげ図 分散、標準偏差	ヒストグラム 代表値 (平均値・最頻値・中央値) 四分位数と箱ひげ図 分散と標準偏差	
	12				
三 学 期	1	第3章 図形と計量 三角比	三角比の基礎知識 を習得する	三角比、三角比の相互関係 三角比の拡張	三角比の定義を覚 え、図形に応用でき る
	2	三角形への応用	三角形への応用	正弦定理、余弦定理 三角形の面積	正弦定理、余弦定理 を用いることができ る 図形の面積を求め ることができる
	3	<b>学年末考査</b>			
<p>その他 ( 履修上の留意点など )</p> <p>まず、与えられた宿題や休暇中の課題は必ずやってください。提出を求められていれば従ってください。学習する目的を理解して授業に望みましょう。課題や授業態度を平常点として加味します。</p> <p>また、数学の用語を正確に理解し修得することに努めて下さい。課題の問題をこなし達成感を味わえる勉強をしてください。教科書を丁寧に読み、公式を覚え演習問題を繰り返して下さい。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学A	2	1年・1類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	新編 数学I, 数学A (数研出版)		Study-Up ノート 数学I・A (数研出版)

科目の到達目標
式の計算, 1次不等式, 実数 (数学I), 場合の数, 確率, 図解の性質 (数A) について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識する。

評価の観点と方法について
評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて, 定期考査の他に, レポート, 平素の学習意欲, 学習態度, 出席状況, ノート点検等によって行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第1章 数と式 (数I) 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解	多項式の演算, 因数分解を確実にできるようにする	多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解 複数の文字を含む式の因数分解	展開, 因数分解が速く, 正確にできる
	5	(中間考査)			
	6	第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算	絶対値の記号を理解し, 絶対値を含む方程式・不等式を解けるようにする	実数 分母の有理化	根号を含む式の計算ができる
	7	第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式	1次不等式, 連立不等式が解けるようにする	1次不等式, 連立不等式, 絶対値を含む方程式・不等式	1次不等式, 連立不等式が解ける
		(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第1章 場合の数と確率 (数A) 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	具体的な事象の考察などを通して、順列、組合せについて理解し、事象を数学的に考察し処理できるようにする	順列、円順列、重複順列、組合せ 組合せと絡めた総合問題	順列、組合せの問題を解くことができる
	10	(中間考査)			
	11	第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率	順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理できるようにする	試行, 根元事象, 確率の定義 排反事象, 加法定理, 余事象 独立な試行 反復試行の確率 条件付き確率	確率を正確に計算することができる
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	第2章 図形の性質 (数A) 第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバ・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図	平面図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける	三角形の辺の比 三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 円と共通接線 方べきの定理 2円の位置関係	三角形の重心、外心、内心に関する角度および長さを求めることができる。  円に内接する四角形の性質を理解し、角度および長さを求めることができる
	2				方べきの定理を用いて標準問題を解くことができる
	3	第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体  (期末考査)	空間図形に関する基本的な性質を理解する	2直線の位置関係 直線と平面の位置関係 2平面の位置関係 多面体	
<p>その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )</p> <p>大学入試に対応できる力をつけるためには、基本事項の確実な習得、そして基礎的な計算力と論理的思考力をつけることが必要です。数学を入試に必要としない生徒にも論理的な思考力や計算力を習得し、基本事項を理解することが重要です。そのためには、教科書の復習と参考書で授業内容の定着をはかるように毎日の家庭学習を求めます。また、授業の進度に合わせて宿題を出すので、必ず提出してください。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学A	2	1年・2類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	高等学校 数学A (数研出版)		NEW ACTION LEGEND 数学I・A(東京書籍)

<p>科目の到達目標</p> <p>集合と命題, 場合の数と確率, データの分析, 図形の性質, 式と証明について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>評価は, 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて, 平素の学習意欲や学習態度を重視して, 小テスト・課題・課題テスト・定期考査等で確認していく。</p>
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学I 第2章 集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解し, それを事象の考察に活用できるようにする。	集合 研究 3つの集合の共通部分と和集合 命題と条件 命題と証明 研究 $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明 発展 「すべて」と「ある」の否定	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合の表し方を理解しているか。また, ベン図などを用いて集合を視覚的に表現して処理できるか。</li> <li>命題の真偽を考察でき, 必要条件や十分条件について判断できるか。</li> </ul>
	5	(中間考査)			<ul style="list-style-type: none"> <li>対偶や背理法を適切に用いるなどして命題の証明ができているか。</li> </ul>
	6	数学A 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め, それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場合の数 集合の要素の個数 場合の数 順列 組合せ 研究 重複を許して作る組合せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベン図などを利用して集合の要素の個数を数えることができるか。</li> <li>和の法則や積の法則を適切に利用できるか。</li> </ul>
	7	(期末考査)			<ul style="list-style-type: none"> <li>場合の数を順列・円順列・重複順列・組合せ・重複組合せに帰着させて求められるか。</li> </ul>
		夏期講習 数学I 第5章 データの分析	統計の基本的な考えを理解するとともに, それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 データの相関	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表値の概念を理解しているか。</li> <li>分散, 標準偏差, 相関関係を理解し, データの傾向を調べられるか。</li> </ul>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学A 第1章 場合の数と確率 第2節 確率	確率を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率 <ul style="list-style-type: none"> <li>事象と確率</li> <li>確率の基本性質</li> <li>独立な試行と確率</li> <li>条件付き確率</li> <li>研究 原因の確率</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の考え方と積の法則を活用し、複雑な事象の確率を求められるか。</li> <li>・確率の乗法定理を理解しているか。また、原因の確率の問題を解くことが出来るか。</li> </ul>
	10	(中間考査) 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形 <ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の辺の比</li> <li>三角形の外心・内心・重心</li> <li>チェバ・メネラウスの定理</li> <li>円と直線</li> <li>2つの円</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の外心・内心・重心の定義・性質について理解しているか。</li> <li>・チェバ・メネラウスの定理を活用できるか。</li> <li>・円や直線の位置関係とその性質について考察ができるか。</li> </ul>
	11	(期末考査) 冬期講習 第2節 空間図形	空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間図形 <ul style="list-style-type: none"> <li>直線と平面</li> <li>研究 三垂線の定理</li> <li>空間図形と多面体</li> <li>研究 正多面体の種類</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間における直線や平面が垂直や平行になるかを与えられた条件から考察できるか。</li> </ul>
三 学 期	1	第1章 式と証明 第1節 式と計算	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式と計算 <ul style="list-style-type: none"> <li>3次関数の展開と因数分解</li> <li>二項定理</li> <li>整式の割り算</li> <li>分数式とその計算</li> <li>恒等式</li> </ul> </li> <li>・等式・不等式の証明 <ul style="list-style-type: none"> <li>等式の証明</li> <li>不等式の証明</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多項式の割り算の方法を理解しているか。</li> <li>・分数式の四則演算ができるか</li> <li>・方程式と恒等式の違いを理解しているか</li> <li>・等式・不等式の証明を通して、数学の論証に興味関心を示しているか。</li> </ul>
	2	第2節 等式・不等式の証明			
	3	(学年末考査)			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

教科書による学習の後、参考書を見ながら問題集を解き進めることにより力を養ってほしい。毎週小テストを行い、基本問題の定着を図る。問題集は自力で解けるようになるまで、何度も同じ問題を解いてほしい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅱ	3	2年・1類・A型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	新編 数学Ⅱ 数研出版	Study-up ノート数学Ⅱ 数研出版	

科目の到達目標
複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法について、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。
事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点に基づいて、
定期考査、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、ノート点検、小テストによって総合的に行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	<u>第2章 複素数と方程式</u> 第1節 複素数と2次方程式の解 複素数の計算 解と係数の関係	数を複素数まで拡張する意義を理解し、虚数単位 $i$ を使い四則計算をする。	複素数 2次方程式 2次方程式の解と係数の関係 剰余の定理と因数定理	複素数の計算が正確にできる。 2次方程式の解を求めることができ、解の種類を判別できる。 解と係数の関係を理解できる。
	5	第2節 高次方程式 剰余の定理と因数定理 高次方程式  <中間考査>	因数定理について理解し、3次以上の整式を整式の除法と関連付けて因数分解する。	組み立て除法	高次方程式が解ける。
	6	<u>第3章 図形と方程式</u> 第1節 点と直線 直線の方程式  第2節 円 円の方程式 円と直線  第3節 軌跡と領域	座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に処理し考察するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。	内分点、外分点 直線上の点、平面上の点 直線の方程式、2直線の関係  円の方程式 円と直線 軌跡と方程式 不等式の表す領域	座標を用いて内分点、外分点を求められる。 座標平面上の直線を方程式で表すことができ、直線の位置関係が考察できる。  円の方程式が求めることができる。 円と直線の位置関係考察ができる。  軌跡を求めることができる。 不等式の表す領域を図示できる。
	7	(進研模試過去問対策)  <期末考査>	与えられた条件を満たす点の軌跡や領域を求めて図示し、それを考察することができる。		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	<u>第5章 指数関数と対数関数</u> 第1節 指数関数 指数の拡張 指数関数	拡張された指数の定義が、これまでの場合の自然な拡張になっていることを理解する。 具体的な事象の考察に活用できるようにする。	指数の拡張 指数関数のグラフ	指数法則を用いた計算ができる。 指数関数のグラフの性質を理解する。
	10	第2節 対数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数  <中間考査>	対数関数について理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。	対数とその性質 対数関数 常用対数	対数と指数の関係を理解し、対数の性質・公式を用いた計算ができる。 対数を含む方程式・不等式の典型問題をスムーズに解くことができる。
	11	<u>第4章 三角関数</u> 第1節 三角関数 角の拡張 三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式 不等式	三角関数について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	弧度法の定義を理解する 三角関数の性質 三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式、不等式 加法定理	三角関数の相互関係など、基本的な性質を理解する。 弧度法で表された角の三角比を求めることができる。 三角関数の基本的なグラフを書くことができる。
	12	第2節 加法定理 加法定理の応用  <期末考査>		加法定理の応用 三角関数の合成	加法定理を使い、基本的な問題を解くことができる。
三 学 期	1	<u>第6章 微分法と積分法</u> 第1節 微分係数と導関数 導関数とその計算	具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し、その有用性を認識する。	極限值 微分係数と導関数	極限值、微分係数、導関数を求めることができる。
	2	接線の方程式		接線	接線の方程式を求めることができる。
	3	第2節 関数の値の変化 関数の増減と極大、極小	関数の値の変化を調べて、3次関数のグラフをかきことができるようにする。	関数の値の変化 最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式	導関数を用い、増減表をかき、グラフの概形をかきことができる。 グラフを用いて方程式や不等式を解くことができる。
		第3節 積分法 不定積分と定積分 定積分と面積  <学年末考査>	積分の考えを理解し、曲線や直線で囲まれた図形を理解し、その面積を求めることができるようにする。	不定積分 定積分 定積分と面積	曲線や直線で囲まれた面積を求めることができる。
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>教科書や問題集の問題を、自ら考え、反復して解くことが何よりも大切である。授業の進度に合わせて課題を出すので、日々継続した学習が不可欠である。教科書の典型問題は、反復練習して解答がうかんでくるような状態にしてほしい。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅱ	4	2年・1類・B型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	新編 数学Ⅱ (数研出版)		チャート基礎と演習数学Ⅱ+B+C (数研出版)

科目の到達目標
図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法、数列について、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

評価の観点と方法について
評価は、「関心・意欲・態度」「数学的なものの見方や考え方」「表現・処理」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行う。
具体的には、定期考査の他に小テスト・ミドルテスト・課題の提出状況・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント	
一 学 期	4	3章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円	座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に処理し考察するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。	2点間の距離 内分点・外分点  直線の方程式 2直線の関係 円の方程式 円と直線	2点間の距離、内分点、外分点の公式を使って適切に問題を解くことができる。 直線に関して対称な点を求めることができる。	
	5	3章 軌跡と領域  <中間考査> 数B 第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 数列とその項 等差数列 等比数列	等差数列や等比数列についての基本的な知識及び計算技能を習得させると共に規則性を発見できる能力を養う。	軌跡の方程式 不等式の表す領域 連立不等式の表す領域  数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和	軌跡の定義を理解し、与えられた条件から軌跡を求めることができる 不等式の表す領域を図示することができる。	
	6	第2節 いろいろな数列 いろいろな数列の和と記号Σ 数列の和と一般項	階差数列などいろいろな数列の一般項、または和を求める際の基本的発想を習得させると共にΣの計算についても慣れるようにする。	和の記号Σ いろいろな数列	いろいろな数列に対し、特徴から一般項、数列の和を求めることができる。 弧度法で表された角の三角比の値を求めることができる。	
	7	第3節 数学的帰納法 漸化式			漸化式の規則性から一般項を求めることができる。	
			<期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	6章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数  2節 関数の値の変化  3節 積分法	具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解させる。  関数の値の変化を調べて、3次関数のグラフをかけるようにする。  不定積分・定積分について理解し、直線や放物線で囲まれた図形の面積を求めることができるようにする。	微分係数 導関数 接線 関数の増減と極大・極小 関数の最大・最小 方程式・不等式への応用  不定積分 定積分 定積分と面積	微分係数、導関数を求め、接線の方程式を求めることができる。 導関数を用いて、関数の極大・極小を調べ、増減表とグラフをかくことができる。  不定積分・定積分の計算ができる。 直線や放物線が囲む部分の面積を求めることができる。
	10	<中間考査>			
	11	4章 三角関数 1節 三角関数	三角関数について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	一般角 三角関数 三角関数の性質 三角関数のグラフ 三角関数の応用 加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成	三角関数の相互関係を自由に活用できる。  三角関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。  加法定理・三角関数の合成を用いて、三角方程式・不等式を解くことができる。
		12	2節 加法定理  <期末考査>		
三 学 期	1	数Cに入る 数C 第1章 平面上のベクトル	ベクトルの考え方とその基本的な演算について習得させる。成分計算と内積についての技能を習得させる。	ベクトルの意味 ベクトルの加法・減法・実数倍 ベクトルの平行・分解 ベクトルの成分	ベクトルの性質を理解し、演算で表されたベクトルを図示することができる。
	2	第1節 ベクトルとその演算  第2節 ベクトルと平面図形	位置ベクトルとベクトル方程式の発想を理解させると共に平面座標とベクトルと関係を理解させる。	位置ベクトル	定理・公式を理解し、それを用いて基本問題を解くことができる。
	3	位置ベクトル 位置ベクトルの図形への応用 図形のベクトルによる表示 <学年末考査>		ベクトルの図形への応用	図やグラフにおいて、点や直線をベクトルを使い表すことができる。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

教科書や問題集の問題を、自ら考え、反復して解くことが何よりも大切である。授業の進度に合わせて課題を出すので、日々継続した学習が不可欠である。教科書の典型問題は、すぐ答がうかんでくるような状態にしておきたい。また、1年次の復習等にも力を注いで欲しい。大学入学共通テスト、大学の標準入試問題に対応する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅱ	3	2年・1類・C型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	新編 数学Ⅱ (数研出版)		Study-up ノート数学Ⅱ (数研出版)

科目の到達目標
複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法について、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。
事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点に基づいて、
定期考査、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、ノート点検、小テストによって総合的に行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 複素数の計算 解と係数の関係	数を複素数まで拡張する意義を理解し、虚数単位 $i$ を使い四則計算をする。	複素数 2次方程式 2次方程式の解と係数の関係 剰余の定理と因数定理	複素数の計算が正確にできる。 2次方程式の解を求めることができ、解の種類を判別できる。 解と係数の関係を理解できる。
	5	第2節 高次方程式 剰余の定理と因数定理 高次方程式  <中間考査>	因数定理について理解し、3次以上の整式を整式の除法と関連付けて因数分解する。	組み立て除法	高次方程式が解ける。
	6	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 直線の方程式  第2節 円 円の方程式 円と直線  第3節 軌跡と領域	座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に処理し考察するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。	内分点、外分点 直線上の点、平面上の点 直線の方程式、2直線の関係  円の方程式 円と直線 軌跡と方程式 不等式の表す領域	座標を用いて内分点、外分点を求められる。 座標平面上の直線を方程式で表すことができ、直線の位置関係が考察できる。  円の方程式が求めることができる。 円と直線の位置関係考察ができる。  軌跡を求めることができる。 不等式の表す領域を図示できる。
	7	(進研模試過去問対策)  <期末考査>	与えられた条件を満たす点の軌跡や領域を求めて図示し、それを考察することができる。		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	<u>第5章 指数関数と対数関数</u> 第1節 指数関数 指数の拡張 指数関数	拡張された指数の定義が、これまでの場合の自然な拡張になっていることを理解する。 具体的な事象の考察に活用できるようにする。	指数の拡張 指数関数のグラフ	指数法則を用いた計算ができる。 指数関数のグラフの性質を理解する。
	10	第2節 対数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数  <中間考査>	対数関数について理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。	対数とその性質 対数関数 常用対数	対数と指数の関係を理解し、対数の性質・公式を用いた計算ができる。 対数を含む方程式・不等式の典型問題をスムーズに解くことができる。
	11	<u>第4章 三角関数</u> 第1節 三角関数 角の拡張 三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式 不等式	三角関数について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	弧度法の定義を理解する 三角関数の性質 三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式、不等式 加法定理	三角関数の相互関係など、基本的な性質を理解する。 弧度法で表された角の三角比を求めることができる。 三角関数の基本的なグラフを書くことができる。
	12	第2節 加法定理 加法定理の応用  <期末考査>		加法定理の応用 三角関数の合成	加法定理を使い、基本的な問題を解くことができる。
三 学 期	1	<u>第6章 微分法と積分法</u> 第1節 微分係数と導関数 導関数とその計算	具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し、その有用性を認識する。	極限值 微分係数と導関数	極限值、微分係数、導関数を求めることができる。
	2	接線の方程式		接線	接線の方程式を求めることができる。
	3	第2節 関数の値の変化 関数の増減と極大、極小	関数の値の変化を調べて、3次関数のグラフをかきことができるようにする。	関数の値の変化 最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式	導関数を用い、増減表をかき、グラフの概形をかきことができる。 グラフを用いて方程式や不等式を解くことができる。
		第3節 積分法 不定積分と定積分 定積分と面積  <学年末考査>	積分の考えを理解し、曲線や直線で囲まれた図形を理解し、その面積を求めることができるようにする。	不定積分 定積分 定積分と面積	曲線や直線で囲まれた面積を求めることができる。
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>教科書や問題集の問題を、自ら考え、反復して解くことが何よりも大切である。授業の進度に合わせて課題を出すので、日々継続した学習が不可欠である。教科書の典型問題は、反復練習して解答がうかんでくるような状態にしてほしい。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅱ	3	2年・2類・文型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	高等学校 数学Ⅱ, 数学C (数研出版)		青チャート数学ⅡBC (数研出版) REPEAT 数学ⅡB, C (数研出版)

科目の到達目標
微分と積分 (数学Ⅱ), 平面ベクトル・空間ベクトル (数学C) を学習し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 また、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 2学期末には文系の学習範囲を終え、3学期は数学ⅠA, ⅡBの問題演習を行う。

評価の観点と方法について
評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重視して、直感力・思考力・表現力を課題プリント・レポート・小テスト・課題テスト・定期考査等で確認していく。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	・微分・積分の考えを理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・微分係数と導関数 微分係数 導関数とその計算 ・接線の方程式	・微分係数、導関数を求め、接線の方程式を求めることができる。
	5	第2節 関数の値の変化 (中間考査)			
	6	第3節 積分法 微分と積分		・積分法 不定積分 定積分 定積分と面積	・定積分の計算ができる。 直線や放物線が囲む部分の面積を求めることができる。
	7	(期末考査) 夏期講習 微分と積分 データ分析 (テスト)		・分散, 相関係数	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学C第1章 平面上のベクトル ベクトルとその演算	<ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトルを用いて、図形の問題をベクトルで解けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの演算・成分・内積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの成分や内積が求められる。</li> </ul>
	10	第2節 ベクトルと平面図形  (中間考査) 平面ベクトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面上の直線や円などの図形の領域をベクトルを用いて表すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルと平面図形 位置ベクトル ベクトルの図形への応用 図形のベクトルによる表示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトルの一意性を理解し、図形の性質を証明できる。</li> </ul>
	11	数学C第2章 空間のベクトル  (期末考査) 冬期講習 2次曲線(数学C) (テスト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間座標を定め、空間の点も座標を用いて表すことができることを知る。</li> <li>空間ベクトルを平面ベクトルの拡張として定義し、空間のベクトルについても平面と同様の性質が成り立つことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間ベクトル 空間の点 空間ベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえることができる。</li> <li>内積や位置ベクトルの考え方を利用して、空間の図形の性質を考察できる。</li> </ul>
三 学 期	1	数学IAIIBCの復習	大学入試に向けて、基礎学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>公式の理解と定型・頻出問題の演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>頻出問題の定石が身についているか。</li> </ul>
	2				
	3	(学年末考査)			

### その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業をどんどん前に進めていき、3学期からは大学入試に向けて問題演習に入っていく予定です。1年生のときと同等か、またはそれ以上のスピードで授業を前に進めますので、毎日の復習を徹底してください。そして、授業の復習に加えて、問題集の問題を少しずつでも解いてみてください。何度も何度も同じ問題を解くことで、確実に数学の力はついていきます。そしてその日々の積み重ねが、最後には大学受験を突破するための大きな力になります。自分から進んで、粘り強く勉強に取り組んでくれることを期待しています。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅱ	5	2年・2類・理型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	高等学校 数学Ⅱ, 数学C, 数学Ⅲ (数研出版)	青チャート数学ⅡBC, Ⅲ (数研出版) REPEAT 数学ⅡB, ⅢC (数研出版)	

科目の到達目標
微分と積分 (数学Ⅱ), 平面ベクトル・空間ベクトル (数学C), 関数, 極限, 微分法 (数学Ⅲ) を学習し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また, それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

評価の観点と方法について
評価は, 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて, 平素の学習意欲や学習態度を重視して, 直感力・思考力・表現力を課題プリント・レポート・小テスト・課題テスト・定期考査等で確認していく。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	・微分・積分の考えを理解し, その有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。	・微分係数と導関数 微分係数 導関数とその計算 ・接線の方程式	・微分係数, 導関数を求め, 接線の方程式を求めることができる。
	5	第2節 関数の値の変化 第3節 積分法  (中間考査) 微分と積分		・関数の値の変化 関数の増減と極大・極小 関数の増減・グラフの応用 ・積分法 不定積分 定積分 定積分と面積	・導関数を用いて, 関数の極大・極小を調べ, 増減表とグラフをかくことができる。 ・定積分の計算ができる。 直線や放物線が囲む部分の面積を求めることができる。
	6	数学C第1章 平面上のベクトル ベクトルとその演算	・位置ベクトルを用いて, 図形の問題を, ベクトルを使って解けるようにする。	・ベクトルの演算・成分・内積	・ベクトルの成分や内積が求められる。
	7	第2節 ベクトルと平面図形  (期末考査) 夏期講習 平面ベクトル データ分析 (テスト)	・平面上の直線や円などの図形を, ベクトルを用いて表すことができるようにする。	・ベクトルと平面図形 位置ベクトル ベクトルの図形への応用 図形のベクトルによる表示  ・ベクトル方程式 ・分散, 相関係数	・位置ベクトルの一意性を理解し, 図形の性質を証明できる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学C第2章 空間のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間座標を定め、空間の点も座標を用いて表すことができることを知る。</li> <li>空間ベクトルを平面ベクトルの自然な拡張として定義し、空間のベクトルについても平面と同様の性質が成り立つことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間ベクトル</li> <li>空間の点 空間ベクトル</li> <li>ベクトルの成分</li> <li>ベクトルの内積</li> <li>ベクトルの図形への応用</li> <li>図形のベクトル表示 (平面も含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえることができる。</li> <li>内積や位置ベクトルの考え方を利用して、空間の図形の性質を考察できる。</li> </ul>
	10	(中間考査) 数学Ⅲ開始		(以下、数学Ⅲ選択者)	
	11	第1章 関数 第1節 分数関数 第2節 無理関数 第3節 逆関数と合成関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解する。合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数関数</li> <li>無理関数</li> <li>逆関数と合成関数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解すること。合成関数や逆関数の意味を理解し、それらを求めることができる。</li> </ul>
	12	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 (期末考査) 冬期講習 2次曲線 (数学C) (テスト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数列の極限</li> <li>無限等比数列, 無限級数</li> <li>関数の極限</li> <li>三角関数と極限</li> <li>関数の連続性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数列の極限を理解している。</li> <li>関数の極限を理解している。</li> </ul>
三 学 期	1	第3章 微分法 第1節 導関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>積、商の導関数、合成関数や逆関数の微分法を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部分係数と導関数</li> <li>導関数の計算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな関数の導関数を求めることができる。</li> </ul>
	2	第2節 いろいろな関数の導関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな関数の導関数を求める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな関数の導関数</li> </ul>	
	3	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 (学年末考査)		<ul style="list-style-type: none"> <li>第n次導関数</li> <li>曲線の方程式と導関数</li> </ul>	

### その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )

授業をどんどんと前に進めていき、2学期中間テスト後には数学Ⅲの内容に入っていく予定です。1年生のときと同等か、またはそれ以上のスピードで授業を前に進めますので、毎日の復習を徹底してください。そして、授業の復習に加えて、問題集の問題を少しずつでも解いてみてください。何度も何度も同じ問題を解くことで、確実に数学の力はついていきます。そしてその日々の積み重ねが、最後には大学受験を突破するための大きな力になります。自分から進んで、粘り強く勉強に取り組んでくれることを期待しています。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学A	2	2年・3類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	新 高校の数学A (数研出版)		ポイントノート数学A (数研出版)

科目の到達目標
場合の数と確率, 整数の性質又は図形の性質について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。

評価の観点と方法について
(関心・意欲・態度) 数学的な見方や考え方に関心をもつとともに, そのよさを認識し, それらを事象の考察に活用しようとする。
(数学的な見方や考え方) 数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的に捉え, 論理的に考察するとともに, 過程を振り返り多面的・発展的に考察し, 表現できる。
(数学的な技能) 事象を数学的に表現し, 処理する仕方や, 推論の方法などの技能を身につけている。
(知識・理解) 基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。
以上4つの観点について, 定期考査, 授業態度, 提出物等により評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第1章 場合の数と確率 1節 場合の数	場合の数を求めるときの基本な考え方や確率についての理解を深め, それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合</li> <li>集合の要素の個数</li> <li>和の法則と積の法則</li> <li>順列</li> <li>順列の利用</li> <li>重複順列</li> <li>円順列</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合の表し方, 用語, 記号を理解しているか。</li> <li>集合の要素の個数を求めることができるか。</li> <li>場合の数を効率よく求めることができるか。</li> <li>順列の総数を求めることができるか。</li> </ul>
	5	(中間考査)	具体的な事象の考察などを通して, 順列・組合せについて理解し, 不確定な事象を数量的にとらえる。事象を数学的に考察し処理できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>組合せ</li> <li>組合せの利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組合せの総数を求めることができるか。</li> </ul>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント		
	6	2節 確率		<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率の意味</li> <li>・確率の計算</li> <li>・独立な試行の確率</li> <li>・反復試行の確率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な確率を求めることができるか。</li> <li>・確率の加法定理を理解しているか。</li> <li>・余事象の確率、独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率を求めることができるか。</li> </ul>		
	7	(期末考査)					
二 学 期	9	第2章 図形の性質 1節 三角形の性質	三角形や円などの図形の性質についての理解を深め、図形を多方面から見ることで、図形を論理的に考察し処理できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形と角</li> <li>・三角形と比</li> <li>・三角形の外心・内心・重心</li> <li>・角の二等分線と線分の比</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察できるか。</li> </ul>		
	10	(中間考査)					
	11	2節 円の性質				<ul style="list-style-type: none"> <li>・円周角の定理</li> <li>・円に内接する四角形</li> <li>・円と直線</li> <li>・接線と弦の作る角</li> <li>・方べきの定理</li> <li>・2つの円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円の接線の性質や方べきの定理を用いて、線分の長さや角の大きさを求めることができるか。</li> <li>・既習事項の理解ができているか。またそれらを用いて応用問題が解けるか。</li> </ul>
	12	(期末考査)					
三 学 期	1	第3章 整数の性質 1節 約数と倍数	整数の性質についての理解を深め、論理的に考察し処理できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約数と倍数</li> <li>・最大公約数と最小公倍数</li> <li>・ユークリッドの互除法</li> <li>・方程式の整数解</li> <li>・不定方程式の整数解</li> <li>・2進数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約数や倍数など既習事項の内容を論理的に理解しているか。</li> <li>・足し算の仕組みを論理的に理解できているか。2進法でも応用できるか。</li> </ul>		
	2	2節 整数の性質の応用					
	3	(学年末考査)					
<p>その他 ( 履修上の留意点 )</p> <p>教科書・問題集の例題や問の解法を理解し、繰り返し問題を解くことにより学力向上を図ってください。数学が苦手な人ほど、黒板に書かれた式や図、あるいは、問題集の解答をノートに写すことで勉強したと考えがちですが、自ら考えて問題を解くことをせずに数学が得意になることはありません。課題については、担当者の指示に従い期限内に提出してください。数学Aの習得に加えて、基本的な計算力の向上も目指します。</p>							

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学B	2	2年・1類・B型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	新編 数学B (数研出版)		チャート基礎と演習数学II+B+C (数研出版)

科目の到達目標
複素数と方程式、指数関数と対数関数、統計的な推測について学び基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して数学的に表現・考察する能力を育て、数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させ、大学入試に必要な数学的能力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて
具体的には、定期考査の他に小テスト課題テスト・課題の提出状況・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	<u>数II</u> 2章 複素数と方程式 1節 複素数と 2次方程式の解	実数解のない2次方程式の解を複素数の範囲で考えさせ、求めさせる。	複素数 2次方程式 2次方程式の解と係数の関係  剰余の定理 因数定理	複素数の計算を正しく行える。 2次方程式の解を求めることができる。 解と係数の関係を理解できる。
	5	2節 高次方程式  <中間考査>	因数定理が3次以上の整式を因数分解するときには有効であることや、 $n$ 次方程式の解法が $n-1$ 次方程式の解法に帰着されるという事実を理解させる。	高次方程式	剰余定理を用いて整式の余りを求めることができる。 因数定理を用いて、高次方程式の因数分解ができる。 高次方程式の解を求めることができる。
	6	<u>5章 指数関数と対数関数</u> 1節 指数関数 2節 対数関数	指数関数、対数関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	指数法則累乗根 指数の拡張 指数関数とそのグラフ  対数とその性質 対数関数とそのグラフ 常用対数	定理・公式を理解し、それを用いて基本問題を解くことができる。 指数法則を用いた計算ができる。 対数と指数の関係を理解し、対数の
	7	<期末考査>			公式を用いて計算ができる。 対数を含む方程式・不等式の問題を解くことができる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	<b>数B</b> <u>2章 統計的な推測</u> 1節 確率分布	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積  二項分布 正規分布	確率変数の確率分布を求めることができる。 確率変数の期待値 $E(X)$ や分散 $V(X)$ などの計算式を理解して活用できる。 様々な確率変数の期待値や分散を、公式を利用して求めることができる。  二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 正規分布に従う確率変数 $X$ を標準正規分布に従う確率変数 $Z$ に変換できる。  連続的な確率変数について理解し、その期待値と分散が求められる。
	10	<中間考査>			
	11	<期末考査>			
三 学 期	1	2節 統計的な推測	母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	母集団と標本 標本平均の分布 推定 仮説検定	復元抽出と非復元抽出について理解している。 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。
	2				
	3	<学年末考査>			
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>数学Bの単位数が2なので、早いペースで授業を進めていく。教科書の例題や問を重点的に進めていき、問題集の問題を課題として出す。授業の進捗についていかなるためにも予習・復習は必ず行わせたい。また大学入試共通テスト、大学の入試標準問題に対応させるために、基本問題だけでなく応用問題も取り入れていく。難しい問題に対応するためには、普段から問題に対して自分で考え、解答する習慣を身に付けたい。日々継続した学習を心がけてほしい。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学B	3	2年・2類	理型・必修 文型・選択
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	高等学校 数学B, 数学C (数研出版)		REPEAT 数学II B, C, 青チャートII B C (数研出版)

科目の到達目標
数列 (数学B), 統計的な推測 (数学B), 媒介変数表示と極座標 (数学C), 複素数平面 (数学C) を学習し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

評価の観点と方法について
評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重視して、直感力・思考力・表現力を課題プリント・レポート・小テスト・課題テスト・定期考査等で確認していく。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	等差数列, 等比数列についての基本的な用語の意味を理解し, 一般項や和を求めることができるようにする。	・等差数列と等式数列 数列と一般項 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和	・数列の公差, 公比, 一般項などを理解している。
	5	第2節 いろいろな数列  (中間考査)	数列の和を表す記号 $\Sigma$ の性質を知り, 正しい理解のもとで $\Sigma$ を活用できるようにする。 等差数列, 等比数列以外の簡単な数列について, 和の求め方などを知る。	・いろいろな数列 和の記号 $\Sigma$ 階差数列 いろいろな数列の和	・和の記号 $\Sigma$ の意味を理解し, 数列の和が求められる。 ・群数列を理解し, ある特定の群に属する数の和が求められる。
	6	第3節 漸化式と数学的帰納法	漸化式の考えを導入して, 数列を帰納的に定義するというこの意味や, その必要性を理解させる。数学的帰納法の考え方を理解させ, その方法を練習させる。	・漸化式と数学的帰納法 漸化式 数学的帰納法	・初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ・自然数 $n$ に関する命題の証明には, 数学的帰納法が有効なことを理解している。
	7	(期末考査) 夏期講習 平面ベクトル (理系) 微分・積分 (文系) データ分析 (文・理) テスト			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学B 第1章 統計的な推測 第1節 確率分布	・確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握する。また、連続型確率変数について理解し、正規分布を日常の事象の考察に活用できるようにする	・確率分布 確率変数と確率分布 確率変数と期待値と分散 確率変数の和と積 二項分布 正規分布	・確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ・確率変数の期待値、分散、標準偏差が求められる。 ・同時分布を理解し、2つの確率変数の同時分布を求めることができる。 ・確率変数の和の分散など、確率変数の性質が理解できている。 ・二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。
	10	(中間考査) 第2節 統計的な推測	・母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	・統計的な推測 母集団と標本 標本平均の分布 推定 仮説検定	・母集団から標本平均の期待値と標準偏差が求められるか。 ・標本比率が二項分布に従う仕組みを理解し、標本比率についての確率を求めることができる。 ・信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。 ・仮説検定に関わる用語を適切に活用することができる。
	11	数学C (第4章第2節) 媒介変数と極座標	平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	数学B終了  ・媒介変数表示と極座標 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式	・媒介変数の意味及び曲線が媒介変数を用いて表されることを理解し、それらを事象の考察に活用できる。極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることを理解している。
	12	(期末考査) 冬期講習 2次曲線 (数学C)		放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質	・放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解している。
三 学 期	1	数学C (第3章) 複素数平面	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・複素数平面 複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理	・複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解し、それらを事象の考察に活用できる。ド・モアブルの定理について理解している。
	2				
	3	(学年末考査)			
<p>その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )</p> <p>授業をどんどんと前に進めていき、来年度からは大学入試共通テスト対策演習に入っていく予定です。1年生のときと同等か、またはそれ以上のスピードで授業を前に進めますので、毎日の復習を徹底してください。そして、授業の復習に加えて、問題集の問題を少しずつでも解いてみてください。何度も何度も同じ問題を解くことで、確実に数学の力はついていきます。そしてその日々の積み重ねが、最後には大学受験を突破するための大きな力になります。自分から進んで、粘り強く勉強に取り組んでくれることを期待しています。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅲ	3	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	新編 数学Ⅲ (数研出版)	NEW ACTION FRONTIER 数学Ⅲ (東京書籍)	

<p>科目の到達目標</p> <p>・式と曲線、極限、積分法とその応用における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p> <p>・単に解法テクニックの暗記だけではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する姿勢を育み、多面的・発展的に考え、論理的に思考し表現する能力を養う。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重要視して、基本的な知識の理解度、技能の習熟度、思考力、表現力を定期考査、課題プリント、レポート、小テスト、課題テスト等で評価する。</p>
---

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第1章 関数	分数関数、無理関数の定義を理解し、漸近線を求めてグラフをかきことができるようにする 逆関数、合成関数の考え方に興味、関心を示し具体的な問題に取り組もうとする。	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	・分数関数、無理関数のグラフを書くことができる。 ・逆関数、合成関数を求めることができる。
	5	第2章 極限 1節 数列の極限 (中間考査)	数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。	1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数	・様々な数列の極限を求めることができる。
	6	第5章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする 定積分の置換積分法、部分積分法に習熟する。	1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分 4. 定積分とその基本性質 5. 置換積分法と部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題	・置換積分法、部分積分法について理解し、それらを用いて不定積分・定積分を求めることができる。
	7	( 期末考査 )  [ 夏期講習 ]			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第5章 積分法とその応用 第3節 積分法の応用	いろいろな図形の面積、いろいろな立体の体積を求めることができるようにする。	7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ	・図形の面積や体積、曲線の長さなどを求めることができる。
	10	大学入学共通テスト対策 個別試験対策  (中間考査)	大学入学共通テスト対策 大学入試共通テストに必要な基礎力を付ける、問題の形式に慣れる。 個別試験対策 数学Ⅲの問題を通して、数学ⅠAIBの内容も確認する。	数学演習の担当者と協力して、共通テスト対策と数学Ⅲの演習を行う。  個別試験対策 数学Ⅲ終了後に適当な演習書を用い、夏期課題として数学Ⅲの基本事項の総復習を課す。中間考査まで問題演習を行う。	・大学入試共通テストの難易度、問題の内容、問題の形式などに慣れていき、大学入試共通テストで高得点を取るための実力とテクニックを身に付けているか。
	11	大学入学共通テスト対策		大学入学共通テスト対策 プレテストを利用して、共通テスト特有の出題形式になれる。	・数学Ⅲの典型的な問題の解法が身についているか。
	12	(期末考査)  [冬期講習]		11月からは共通テスト対策に集中する。  共通テストのプレテスト演習	
三 学 期	1	総復習  (学年末考査)	共通テスト受験組 共通テストのプレテスト演習。共通テスト終了後、個別試験対策  進路決定組 数学Ⅲの要点整理	プレテスト演習  教科書の例題の復習	・今まで学習してきたことが身についているか。
	2				

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

数学ⅢCの授業では数学Ⅲの第1章・第2章・第5章を学習する。数学ⅢCは、入試問題として出題される問題は典型的な問題が多く、教科書の例題・応用例題を身に付けることが大切である。また、問題演習を通して、身に付けた解法を各自の言葉で整理することが重要である。やらされる勉強ではなく、自ら自発的・積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力をつけてほしい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅲ	4	3年・2類・理型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	青チャート 数学Ⅲ+C (数研出版) REPEAT 数学Ⅲ+C (数研出版) 他	

<p>科目の到達目標</p> <p>微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、基本的な概念や法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学的に考察・表現・処理する仕方や推論の方法を身につけ、活用できているかを評価する。評価方法は平素の授業への取り組み、課題、定期考査等である。</p>
---

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>不定積分 不定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 いろいろな関数の不定積分</li> <li>定積分 定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 定積分のいろいろな問題</li> <li>積分法の応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均値の定理を理解し、それを活用することができる。</li> <li>関数の増減・凹凸・変曲点・漸近線などを調べ、関数のグラフをかくことができる。また、それらを利用して関数の最大値・最小値を求め、さらに方程式・不等式への応用ができる。</li> <li>いろいろな関数の不定積分を求めることができる。</li> <li>被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。</li> <li>色々な関数の定積分を求めることができる。</li> <li>特別な形をした数列の和の極限を定積分を利用して求めることができる。</li> <li>定積分を用いて様々な図形の面積や体積を求めることができる。</li> <li>定積分を用いて様々な曲線の長さを求めることができる。</li> </ul>
	5	(中間考査)			
	6	第3節 積分法の応用		面積、体積、道のり、曲線の長さ	
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	(中間考査)	標準問題までを確実に解く力量を養う。 応用力をつける。 難度の高い問題を解く力量を養う。	入試問題演習 数学I A I I B C の問題を演習し、実践力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでに学習した基本事項、定石を理解しているか確認する。</li> <li>• 問題の意図を把握・考察し、実践的な問題を解くことができるか。</li> </ul>
	10		共通テストに備えて実践を積む。	数学Cと数学演習の授業と並行しながら、共通テスト対策の解説を行う。	
	11				
	12	(期末考査)			
三 学 期	1		共通テスト対策と私立・2次試験対策を行う。		

その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )

2年次で、「第1章 関数」「第2章 極限」「第3章 微分法」「第4章 第1節 1接線の方程式」は履修をおえている。また、未履修の部分の「第4章」についてはスーパー演習にて履修する。自分で解けるようになって初めて自分の力となる。自力で解くことの大切さを理解し、問題集は自力で解けるようになるまで、何度も同じ問題を解いてほしい。そうすれば、確実に数学の力はついていく。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学B	3	3年・1類・A型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	改訂版 新編 数学B 数研出版		数学I・A 一問一答 完全版 Study-up ノート 数学B

科目の到達目標
一学期には数学I・Aの問題演習を行い、既習事項の定着を図る。
二学期には数列統計的な推測について基礎的な知識と発想の仕方を理解させ、知識の習得と技能の習熟を図る。
事象を数学的に表現・考察する能力を育てる学習を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識させ、これらを活用する態度を伸ばす。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点に基づいて、定期考査、小テスト、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、によって行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
第一学期	4	数と式 集合と論証	数学I・Aの基礎的な問題演習を行い、既習事項の定着を図る。	数学I・A一問一答の内容を用い、基本的な問題の解法を確認する。また、レポート課題を通して復習する。	数学I・Aで学習した基本的な定理、公式を用いて問題を解くことができる。
	5	2次関数 データの分析  <中間考査>			
	6	図形と計量 図形の性質			
	7	場合の数・確率  <期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容 と方法	評価のポイント
第二学期	9	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	数列と一般項 等差数列、 等差数列の和 等比数列 等比数列の和	等差数列と等比数列の一般項とその和が求められる。
	10	第2節 いろいろな数列  <中間考査>	和の記号 $\Sigma$ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	和の記号 $\Sigma$ 階差数列	$\Sigma$ 記号が自由に使い、数列の和が求められる。階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる
	11	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布  <期末考査>	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする	確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積 二項分布 正規分布	統計的な推測についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現し解釈することができる。
	12				
第三学期	1	高校数学のまとめ  <学年末考査>	高校数学の内容をふりかえる。	数学ⅠAⅡBの中からいくつかの分野を再確認する。	
	2				
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>一学期には数学Ⅰ・Aの基礎的な定理・公式の使い方や問題の解き方を復習していきます。既に学習していることですが、時間が経って忘れていたことも多くあると思うので授業後には自分でも復習してしっかりと身に付けていきましょう。</p> <p>二学期には数学Ⅱの内容に入ります。数列や統計的な推測など、今までとは違った内容に戸惑うこともあるかもしれませんが、こちらも毎回の授業の復習をして新しい知識を定着させていきましょう。繰り返し問題を解くことで自分のものになっていきます。高校生活最後の1年、皆さんが数学の楽しさに気づき、数学を好きになって卒業してくれることを願っています。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学C (数Ⅲ選択者)	4	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	新編 数学C (数研出版)	NEW ACTION FRONTIER 数学C (東京書籍)	

<p>科目の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数平面, 式と曲線, 微分, 微分法とその応用における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに, それらを積極的に活用する態度を育てる。</li> <li>・単に解法テクニックの暗記だけではなく, 根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する姿勢を育み, 多面的・発展的に考え, 論理的に思考し表現する能力を養う。</li> </ul>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「表現・処理」「意識・理解」の4つの観点に基づいて, 平素の学習意欲や学習態度を重要視して, 基本的な知識の理解度, 技能の習熟度, 思考力, 表現力を, 定期考査, 課題プリント, レポート, 小テスト, 課題テスト 等で評価する。</p>
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント	
一 学 期	4	<u>数学Ⅲ</u> 第2章 極限 2節 関数の極限 <u>数学C</u> 第4章 式と曲線	関数の極限の概念を理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。 放物線, 楕円, 双曲線の定義や性質を理解し, それらを図示したり, 問題の解決に活用したりできるようにする。	4・5. 関数の極限 6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線	・不定形の関数の式を変形し, 関数の極限を求めることができる。 ・2次曲線の方程式からグラフを描けるか。いろいろな問題を解くことができるか。媒介変数表示との関連性を理解しているか。	
	5	第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 (中間考査)	曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解し, 様々な曲線の媒介変数表示について考察できるようにする。	4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 曲線の媒介変数表示 7. 極座標と極方程式		
	6	第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	積・商の導関数, 合成関数・逆関数の微分法を身につける。 いろいろな関数の導関数を求める	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数	・いろいろな関数の導関数を求めることができる。	
	7	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用 (期末考査)	導関数を用いていろいろな曲線の接線の方程式を求め, 関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し, 微分法の有用性を認識する。	4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 5. 方程式, 不等式への応用	・接線・法線の方程式が求めることができる。平均値の定理に興味を持ち図形的意味を考察しようとする。関数の増減, 極値, グラフの凹凸および変曲点などを調べてグラフがかけ, 方程式・不等式に活用できる。	
			【夏期講習】			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第3章 複素数平面	複素数を用いて様々な図形等の考察ができるようになる。	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	・複素数について理解しているか。 原点に関する回転、 $n$ 乗根との関連を理解しているか。 図形への応用問題を解けるか。
	10	大学入学共通テスト対策	大学入学共通テストの出題形式に慣れる	数学Ⅲの授業と協力して、大学入学共通テストに向けての対策を実施すると同時に数学Ⅲを必要とする生徒に対しては個別対応する。	・誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
	11	(中間考査) 大学入学共通テスト対策			
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	数学Ⅱ・B  (学年末考査)	数学Ⅱ・Bの基本事項を再確認し、一般教養程度の知識を身につける	問題集を活用して、問題演習をする。	・数学ⅡBの公式・定理・定石がみについているかどうか。

その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )

この授業では、数学ⅢCの基本事項を身につけ、標準的な入試問題に対応できる力を養成することを目的とする。数学は考える力を育て、問題の意味を適切にとらえ、自分の力で判断していく力が要求される科目ですが、必要事項を覚えていないとこれらの力が身につくことはありません。暗記しなければならないことは暗記すると割り切って学習に臨んでもらいたい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学C (数学演習選択者用)	4	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・攻略! 共通テスト 数学I+A, II+B+C (東京書籍)</li> <li>・数学II・B 一問一答 (東進ブックス)</li> </ul>	

科目の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学II B Cの基本事項の再確認と十分な基礎学力の定着を第1目標とし、その上に立って代表的典型的な入試問題の取り組み方と、思考パターンおよび解法の技術を身に付ける。</li> <li>・単に解法テクニックの暗記だけではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。</li> <li>・さらに日々の演習により応用力と実践力を高め、大学入学共通テスト・国公立2次試験および私立大入試に対応できる実力を養成する。</li> </ul>

評価の観点と方法について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テスト、課題テスト、定期考査等で確認していく。</li> <li>・課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。</li> <li>・以上を総合的に評価する。</li> </ul>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数学IIBC ・方程式・式と証明 ・三角関数 ・指数関数・対数関数 ・数列	定理、公式の再確認を行い、基本的な解法の定着を図る。	授業は以下のサイクルで実施する。 「Quick Check」の確認テスト ↓ 「カギの確認」の解説 ↓ 「練習問題」の解説  全ての単元が終わり次第、「実践問題」を選択して、数学IIBCの内容を総演習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「用語・公式」の確認テストの結果</li> <li>・「テーマ別演習」の確認テストの結果</li> <li>・典型問題の解法を身に付けている。</li> <li>・解法の整理ができている。</li> </ul>
	5	・統計的な推測			
	6	(中間考査) ・ベクトル ・図形と方程式 ・微分と積分			
	7	(期末考査)  [ 夏休み ]		共通テストを受験する生徒は、「実践問題」の残りと「完成問題」に取り組む。	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	共通テスト対策	共通テスト特有の長文問題に慣れる。問題文の中から必要な情報を読み取る。	中間検査までは、1回分のプレテストを複数回に分けて実施し、共通テスト特有の長文問題の読み取り方を学習する。	・プレテストに取り組んでいる。
	10	(中間検査)	解説を通して、共通テスト特有の出題形式の問題の解き方を身に付ける。		・誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
	11				
	12	(期末検査)			
		[冬休み]		共通テストのプレテスト演習をする	
三 学 期	1	数学Ⅱ・B	これまでに学習した知識を整理する。共通テストの本番で目標の点数をとるイメージができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通テスト受験組 共通テスト対策に参加し、共通テスト後は、個別試験対策を行う。</li> <li>・進路決定組 数学ⅡBの基本的な公式・解法の再確認する。</li> </ul>	
	2	(学年末検査)			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

数学Cについては「ベクトル」のみを扱うものとする。

授業を聞いているだけでは実力はつかない。目標を定め、それに向かって必死に努力する。やらされる勉強で

なく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。良問を1題でも

多く解き、各自の言葉で解法をまとめる。自分の言葉でまとめることで、思い出しやすくなり、利用もしやすくなる。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学 C	3	3年・2類・文型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	高等学校 数学 C	ベストセレクション 2025 大学入学共通テスト 数学重要問題集 (実教出版) 他	

科目の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学ⅡBC の基本事項を再確認し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。</li> <li>・ 問題の根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。</li> <li>・ 日々の演習により理解と思考を深め、大学入学共通テストに対応できる実力を養成する。</li> </ul>

評価の観点と方法について
<p>平素の学習意欲や態度を重要視し、定期考査の成績、課題レポートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数学Ⅱの演習	定理、公式の再確認をし、基本的な解法の定着を図る。	数学Ⅱの共通テスト対策の解説を行う。 基本問題の小テストを行い、基本事項を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定理・公式を正確に使うことができるかどうか。</li> </ul>
	5	(中間考査)	問題演習を通して、典型的な入試問題に対応できる力を養成する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解法を理解し、問題を解くときに使えるかどうか。</li> </ul>
	6	数学 BC の演習		数学ⅠBC の共通テスト対策の解説を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の提出状況 テストの結果</li> </ul>
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	(中間 考 査)	共通テスト形式の問題に慣れ、 考察力、計算力を養う。 実践力をさらに向上させる。	数学ⅡBCの共通テスト対策の解説を行う。 ハーフプレテストやプレテストを取り入れて いく。	問題を解くときに典型的な 問題に即座に反応し、機械的 に処理できるかどうか。 考察力を高め、誘導の意図を 把握し考えることができる か。
	10		共通テストに備えて実践を積 む。		
	11		実践を繰り返すことにより得点 力アップを図る。		
	12	(期末 考 査)			
三 学 期	1		共通テスト対策と私立・2次試 験対策を行う。		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

2年次で、数学Cの「第1章 平面ベクトル」「第2章 空間ベクトル」は履修をおえている。自分の頭で考え、自力で解いて初めて、数学の力はついてきます。自分で解くことで、弱点をみつけ、その弱点を補強していくことを繰り返していきましょう。そして、積極的にいろいろな問題に挑戦してさらに実践力を養ってください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学C	3	3年・2類・理型	必須
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	高等学校 数学C (数研出版)	青チャート 数学III+C (数研出版) REPEAT 数学III+C (数研出版) 他	

<p>科目の到達目標</p> <p>微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、基本的な概念や法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学的に考察・表現・処理する仕方や推論の方法を身につけ、活用できているかを評価する。評価方法は平素の授業への取り組み、課題、定期考査等である。</p>
---

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第4章 式と曲線 第2節 媒介変数と極座標	平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・媒介変数表示と極座標 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式	・媒介変数の意味及び曲線が媒介変数を用いて表されることを理解し、それらを事象の考察に活用できる。極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることを理解している。
	5	(中間考査)			
	6	第3章 複素数平面	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・複素数平面 複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理	・複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解し、それらを事象の考察に活用できる。ド・モアブルの定理について理解している。
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	(中間考査)	標準問題までを確実に解く力量を養う。 応用力をつける。 難度の高い問題を解く力量を養う。	入試問題演習 数学ⅠAⅡBCの問題を演習し、実践力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでに学習した基本事項、定石を理解しているか確認する。</li> <li>• 問題の意図を把握・考察し、実践的な問題を解くことができるか。</li> </ul>
	10		共通テストに備えて実践を積む。	数学Ⅲと数学演習の授業と並行しながら、共通テスト対策の解説を行う。	
	11				
	12	(期末考査)			
三 学 期	1		共通テスト対策と私立・2次試験対策を行う。		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

2年次で、「第1章 平面ベクトル」「第2章 空間ベクトル」「第4章 式と曲線 第1節 2次曲線」は履修をおえている。自分で解けるようになって初めて自分の力となる。自力で解くことの大切さを理解し、問題集は自力で解けるようになるまで、何度も同じ問題を解いてほしい。そうすれば、確実に数学の力はついていく。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習	3	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	攻略 共通テスト Pick Up 数学ⅠAⅡB	

科目の到達目標
数学Ⅰ、Aの基本事項を復習し、これらの基本的な知識を習得する。その後、マーク形式の問題を中心に演習し、大学入試、大学入学共通テスト、医療系の専門学校に対応できる学力を養成する。

評価の観点と方法について
日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テスト、課題テスト、定期考査、レポート等で確認していく。特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。以上を総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学Ⅰ・A 練習問題	定理、公式の再確認を行い、基本的な解法の定着を図る。	「Quickcheck」の小テストを実施し定着を図る。 練習問題を用いて公式・定理の使い方を確認し、定着度を課題テストや定期考査を用いて確認する。	基本的な定理・公式を身につけて、それらを正確に使うことができる。
	5	<中間考査>			
	6				
	7	実践問題 <期末考査>	典型的な入試問題に慣れ、難度の高い問題にもチャレンジすることで全体を見通す力を養成する。	「カギの確認」の小テストを実施し定着を図る。 実践問題を用いて、入試における基本問題を解く上で、公式・定理をどのように使用するかを学ぶ。 以上を繰り返して、数学ⅠAの基本事項を総整理し、夏期講習以降の演習につなげる。	問題を解く上で、必要な定理・公式を選択し、それらを用いて解くことができる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	大学入学共通テスト 対策	共通テスト特有の長文 問題に慣れる。問題文 の中から必要な情報を 読み取る。	中間調査までは、1 回分のプレテ ストを複数回に分けて実施し、共 通テスト特有の長文問題の読み取 り方を学習する。	・プレテストに取り組 んでいる。
	10	<中間調査>	解説を通して、共通テ スト特有の出題形式の 問題の解き方を身に付 ける。	時間割変更などを利用し、60 分を 確保し、実践演習をする。	・誘導のねらいに気づ き、それを利用して、問題 を速く、正確 に解ける。
	11			共通テストのプレテスト演習をす る	
	12	<期末調査>			
三 学 期	1	数学 I・A  <学年末調査>	数学 IA の基本的な公 式・定理を再確認し、 それらを使えるよう にし、一般教養としての 数学を身につける。	数学 IA 一問一答を用いて、基本事 項の再確認をする。	数学 IA の基本事項が 身についている。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

この授業では、大学入学共通テストで、平均点以上の得点を確保できることを目指します。

数学は考える力を育て、問題の意味を適切にとらえ、自分の力で判断していく力が要求される科目ですが、必要事項を覚えていないとこれらの力が身につくことはありません。暗記しなければならないことは暗記すると割り切って学習に臨んでもらいたい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習	2	3年・1類・C型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	・進研WINSTEP 数学I・A Basic (Learn - s) ・数学I・A 一問一答 (東進ブックス)	

科目の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題演習を通して、数学IAの基本事項の再確認と十分な基礎学力の定着を目標として取り組む。</li> <li>・数学的なものの見方・考え方を常に意識し、初めて見るような問題にも積極的に挑戦する姿勢づくりを行う。</li> </ul>

評価の観点と方法について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テストや課題レポート、定期考査等で確認していく。</li> <li>・特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。</li> <li>・以上を総合的に評価する。</li> </ul>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	Unit1 数と式 Unit2 2次関数 Unit4 データ分析	基本問題を通して、基礎知識が身についているかの確認をする。	考査ごとに「一問一答の公式・用語の確認」から抜き出した穴埋めプリントをまとめて配付し、レポート課題として、決められた範囲を週に1回提出を求める。	WARMING UP の問題を解くことができる。  MASTER の問題の解説を聴いて理解できる。
	5	(中間考査)	MASTER の問題に取り組むことで基本事項を運用できるかを確認する。	問題集の取り組み方 各 Unit の WARMING UP を学習後に MASTER の問題 (2題あるうちの1題) に取り組む。	
	6	Unit3 図形と計量 Unit6 図形の性質 Unit5 場合の数と確率		定期考査に向けて残りの MASTER の問題に取り組む。	
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	Unit1 数と式 Unit2 2次関数 Unit4 データ分析	1 学期で学習した基本事項を活用して、問題が解ける。	WARMING UP の問題を利用し、週に1回小テスト実施する。  ACTIVE の問題 ↓ 「マーク模試に挑戦しよう！」の問題	小テストに向けて学習をしている。  ACTIVE の問題に主体的に取り組んでいる。  「マーク模試に挑戦しよう！」の問題に主体的に取り組んでいる。
	10	(中間考査)			
	11	Unit3 図形と計量 Unit6 図形の性質 Unit5 場合の数と確率			
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	数学 I A の総復習  (学年末考査)	数学 I A 全体の確認	すべての Unit の WARMING UP の問題に取り組む。	数学 I A の問題を考える上で必要となる基本事項が身についている。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは実力はつかない。目標を定め、それに向かって必死に努力する。やらされる勉強ではなく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。良問を1題でも多くやる事に尽きる。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習	3	3年・2類・文型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	ベストセレクション2025 大学入学共通テスト 数学重要問題集 (実教出版) 他	

科目の到達目標
・数学Ⅰ、数学Aの基本事項を再確認し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。
・問題の根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。
・日々の演習により理解と思考を深め、大学入学共通テストに対応できる実力を養成する。

評価の観点と方法について
平素の学習意欲や態度を重要視し、定期考査の成績、課題レポートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学Ⅰの演習	定理、公式の再確認をし、基本的な解法の定着を図る。	基本問題を使い、基本事項を確認しながら進めていく。 実践問題を使い、共通テスト形式の問題に慣れ、制限時間内に解くことができるよう訓練をする。	・定理・公式を正確に使うことができるかどうか。  ・解法を理解し、問題を解くときに使えるかどうか。
	5	(中間考査)	問題演習を通して、典型的な入試問題に対応できる力を養成する。	単元ごとに確認テストを行う。	・課題の提出状況 テストの結果
	6	数学Aの演習			
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	(中間 考 査)	共通テスト形式の問題に慣れ、考察力、計算力を養う。実践力をさらに向上させる。	数学ⅠAの共通テスト対策の解説を行う。 ハーフプレテストやプレテストを取り入れていく。	問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。 考察力を高め、誘導の意図を把握し考えることができるか。
	10		共通テストに備えて実践を積む。		
	11		実践を繰り返すことにより得点力アップを図る。		
	12	(期末 考 査)			
三 学 期	1		共通テスト対策と私立・2次試験対策を行う。		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

自分の頭で考え、自力で解いて初めて、数学の力はついてきます。自分で解くことで、弱点を見つけ、その弱点を補強していくことを繰り返していきましょう。そして、積極的にいろいろな問題に挑戦してさらに実践力を養ってください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習	4	3年・2類・理型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	2025 大学入学共通テスト 数学重要問題集〔IAIIBC〕 プリント等	

<p>科目の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学 I A I I B C の基本事項の確認と基礎学力の定着を図り、代表的典型的な入試問題に対応できる力を養成する。</li> <li>・解法のテクニックの暗記ではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。</li> <li>・実践的な演習により応用力と実践力を高め、大学入学共通テスト等の入試に対応できる実力を養成する。</li> </ul>
---

<p>評価の観点と方法について</p> <p>平素の学習意欲や学習態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を課題演習、課題テスト等で確認する。</p> <p>定期考査・課題テストの各成績、課題の提出および内容、授業から総合的に評価する。</p>
---

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学 I A I I B の演習	定理、公式の再確認をし、基本的な解法の定着を図る。	公式の確認はプリントと「高校数学のホームページ」を利用して確認する。	定理・公式を正確に使うことができるかどうか。
	5	(中間考査) 数学 I A I I B の演習	問題演習を通して、典型的な入試問題に対応できる力を養成する。	テキストの基本問題は毎週予習し、その結果を GoogleForm で回答する。生徒諸君の予習での出来・不出来を見ながら、それをもとに授業で解説を行う。	解法を理解し、問題を解くときに使えるかどうか。
	6			テキストの実践問題は問題番号順に解くのではなく、ランダムに解説を行う。(どの順番で解説をしていくのかは事前に伝える)	課題の提出状況 テストの結果
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学IAⅡBの演習			今まで身に着けた解法を、入試問題を解くときに、利用できるかどうか。
	10				融合問題を解くときに、融合している1つ1つに気づき、正確な解法の道筋をたどることができるかどうか。
	11	(中間考査) プレテスト開始	共通テスト特有の読解問題、会話問題、長文問題に慣れる。	週に1回共通テストの数学のプレテストを数学①、数学②の順に実施する。 残りの授業では、実施したテストの解説または類題演習を行う。  定期的に確認テストを実施する。	
	12	(期末考査) 冬期講習	本番同様の時間で問題を解き、時間配分を学習する。	共通テスト対策 プレテストを実施する。	
三 学 期	1			共通テスト対策 共通テスト後は志望校に応じた指導を行う	

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

公式の確認をしたいと思ったり、苦手分野を教科書レベルから復習したいと思ったりしたときには「高校数学のホームページ」を活用していただきたい。リンクはClassroomにある。また、手を動かして問題を解くことを大切にしてほしい。当面の目標は共通テストだが、本質的な詩医学の力を身につけることを真の目標としたい。そのために問題の解説は丁寧に行うので演習の時間を積極的にとってもらいたい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習	2	3年・3類	必修
授業担当者	教科書	副教材等	
*****	なし	パラレルノート数学I+A (数研出版)	

#### 科目の到達目標

- ・問題演習を通して、数学IAの基本事項の再確認と十分な基礎学力の定着を目標として取り組む。
- ・数学的なものの見方・考え方を常に意識し、初めて見るような問題にも積極的に挑戦する姿勢づくりを行う。

#### 評価の観点と方法について

- ・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を課題レポート、Google フォームでの小テスト、定期考査等で確認していく。
- ・特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学Iの問題演習	数学Iの基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	整式 展開 因数分解 根号を含む計算 1次不等式	
	5	<中間考査>			
	6	数学Iの問題演習		2次関数 2次不等式  集合と論証	
	7	<期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学 I の問題演習	数学 I の基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	図形と計量 正弦定理・余弦定理  データの分析	公式、定理を理解し、問題を解くことができるか。
	10	<中間考査>  数学 A の問題演習			
	11			場合の数 確率 図形の性質	
	12	<期末考査>			
三 学 期	1	数学 I, 数学 A の問題演習  <学年末考査>	数学 I, 数学 A の基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	数学 I, 数学 A のまとめ	公式、定理を理解し、問題を解くことができるか。

その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )

1, 2 年次に学習した数学 I, 数学 A の問題演習に取り組み、基本的な公式や定理について理解を深め、問題の解法を身に付けてください。1 回目に解けなかった問題はそのままにせず、解答を読み、理解できていないところを見つけて、質問してください。そして、理解できた問題は、解法を暗記するまで繰り返し解いてください。